

## ENDSVILLE400

0001: なが ぎ かんぜん はい なが ぎ かんぜん はい  
流し斬りが完全に入れば、デバフの効果が付与される。

0002: たしゃ みくだ おど  
ゲグァンはこのところ他者を見下すし、ちょっと脅かすか？

0003: さけ この  
グエルツォーニは、酒ならウォッカとスプリッツァを好みますな。

0004: は ひ  
ミェチスワフは、ツギハギに貼られたガムテープを、バリバリと引っぺがす。

0005: じんせいやま たに の  
人生山あり谷ありだが、キャビアをつまみブルゴーニュワインを飲めるのは、  
こうふく  
幸福だろう。

0006: たく いんぺい  
テヨリルは、巧みにトラップを隠蔽したつもりだが、モロバレだぜ。

0007: きつぷ きしゃ の  
ネスビョーの切符では、ヴィーツェプスクの汽車に乗れません。

0008: すきまかぜ みみざわ や  
ヒューヒューと隙間風が耳障りなボロ家を、リフォームせねば。

0009: しよくざい  
コシェヴォイのウィッシュュリストは、ネバネバ食材ばかりだ。

0010: きよく かんべき  
つまり、ドビュッシーの曲は、完璧なアートです。

0011: あま かか つら  
よおガキンちょ、甘っちょろいポリシー掲げてちゃ、辛いだろお？

0012: はんにや めん きやくま いろど らいきやくしゃ  
ピエルヴォマイスキーは、般若の面で客間を彩り、来客者をビビらせる。

0013: きびよう はや ぼくめつ  
デュルビュイで奇病が流行り、アスファンデアルが撲滅した。

0014: あてな ただ が だい ねが  
宛名はクァジモド、但し書きはカトリューティ代でお願いします。

0015: がえ げんざい みぎかた あ  
ドヌーヴはピッチャー返しでケガをし、現在も右肩が上がらない。

0016: ぼ と あくへき  
べた褒めをネガティブに取るのは、ウォジミエシュの悪癖だね。

0017: へきち もど ひさ あ  
ティモシイが僻地から戻り、久しぶりにカルパッチョと会えた。

0018: ひら い こけつ い こじ え  
平たくなれば、虎穴に入らずんば虎子を得ずってやつだ。

0019: かざみどり や ゆ すべ ぎたい  
風見鶏と揶揄されるシェンキェヴィチだが、全て擬態である。

- 0020: フォージャが屁理屈を主<sup>へりくつ</sup>張<sup>しゅちよう</sup>し、規則が改<sup>きそく</sup>まった<sup>あらた</sup>。
- 0021: アニューシャは美食家<sup>びしょくか</sup>で、自宅に直<sup>じたく</sup>属<sup>ちよくぞく</sup>のコックまで雇<sup>やと</sup>う。
- 0022: 健<sup>すこ</sup>やかなベビーの寝顔<sup>ねがお</sup>に、アデイエミの気持<sup>きも</sup>ちが安<sup>やす</sup>らぐ。
- 0023: ビューリヤは、あまりに雑務<sup>ざつむ</sup>が多い不<sup>おお</sup>満<sup>ふまん</sup>から、あっさりとギブアップし辞<sup>や</sup>めた。
- 0024: 氷<sup>ひようじん</sup>刃<sup>じん</sup>じゃなきや、ピラミッドの雑魚<sup>ざこ</sup>にすら斬<sup>ざんげき</sup>撃<sup>つう</sup>が通<sup>と</sup>じぬ。
- 0025: リューマチを病<sup>や</sup>むピヤストゥヴナは、助<sup>じょしゅ</sup>手<sup>しごと</sup>の仕<sup>けっせき</sup>事<sup>きたく</sup>を欠<sup>か</sup>席<sup>せき</sup>し、帰<sup>か</sup>宅<sup>たく</sup>した。
- 0026: ファブリーツィは基<sup>もと</sup>肥<sup>ごえ</sup>を準<sup>じゅん</sup>備<sup>び</sup>し、パプリカの栽<sup>さい</sup>培<sup>ばい</sup>を始<sup>はじ</sup>めた。
- 0027: 桃<sup>とうげんきよう</sup>源<sup>げん</sup>郷<sup>きよう</sup>とユートピアは、似<sup>に</sup>て非<sup>ひ</sup>なるものである。
- 0028: 納<sup>の</sup>沙<sup>さ</sup>布<sup>ふ</sup>岬<sup>さき</sup>で、レビュウの結<sup>け</sup>果<sup>っか</sup>を受<sup>じゅりよう</sup>領<sup>りよう</sup>した。
- 0029: ビテュニアのビジネスホテルでムニャムニャと寝<sup>ね</sup>言<sup>ごと</sup>を言<sup>い</sup>ったが、中<sup>なか</sup>身<sup>み</sup>を覚<sup>おぼ</sup>えてない。
- 0030: ベニヤミーノは、デューク大<sup>だいがく</sup>学<sup>がく</sup>のカリキュラムを取<sup>と</sup>り寄<sup>よ</sup>せた。
- 0031: フェリーの左<sup>さげん</sup>舷<sup>げん</sup>には、見<sup>み</sup>事<sup>ごと</sup>に海<sup>うみ</sup>しか見<sup>み</sup>えないな。
- 0032: へべれけのハーツォグが、あたりをキョロキョロと見<sup>み</sup>渡<sup>わた</sup>す。
- 0033: ケチェグウは、古<sup>ふる</sup>い機<sup>き</sup>具<sup>ぐ</sup>を納<sup>な</sup>屋<sup>や</sup>に押<sup>お</sup>し込<sup>こ</sup>む。
- 0034: この消<sup>け</sup>しゴムが、雑<sup>ざ</sup>貨<sup>っか</sup>屋<sup>や</sup>、並<sup>なら</sup>びにウエブショッ<sup>しなぎ</sup>プでも品<sup>しな</sup>切<sup>ぎ</sup>れ？
- 0035: キェプラヴィークで、夜<sup>よ</sup>な夜<sup>よ</sup>な隻<sup>せきがん</sup>眼<sup>がん</sup>の武<sup>もの</sup>士<sup>のふ</sup>が、うろちょろするらしい。
- 0036: 暫<sup>ざんてい</sup>定<sup>てい</sup>として、アーティスト<sup>わく</sup>枠<sup>わく</sup>はクウドウンで。
- 0037: デバッグのポピュラーなやり方<sup>かた</sup>は、デバグ<sup>つか</sup>ガーを使<sup>つか</sup>うことだ。
- 0038: 迷<sup>めい</sup>彩<sup>さい</sup>柄<sup>がら</sup>のポンチヨに身<sup>み</sup>を包<sup>つつ</sup>むのは、恥<sup>は</sup>ずかしがり屋<sup>や</sup>のツェル<sup>や</sup>シェフです。
- 0039: 華<sup>きゃしゃ</sup>奢<sup>しゃ</sup>なアドログエの秘<sup>ひ</sup>技<sup>ぎ</sup>が、ベツツァーリを穿<sup>うが</sup>つ。
- 0040: ゼブラについて、胸<sup>きようきん</sup>襟<sup>きん</sup>を開<sup>ひら</sup>き語<sup>かた</sup>り合<sup>あ</sup>おうではないか。

0041: ひょっとすると、バニヨーネならモッツアレラチーズやニョッキが<sup>か</sup>買えるかもしれません。

0042: リーチドラ<sup>ろく</sup>六、親<sup>おや</sup>跳ね<sup>つぱ</sup>でトビ。

0043: 雑音<sup>ざつおん</sup>除去<sup>じょきょ</sup>には、アクティブとパッシブのアプローチがある。

0044: だから、ツェペリとジェニーが、ドウビンギエイで<sup>ごはく</sup>五泊も<sup>しゅくはく</sup>宿泊するってさ。

0045: たとえ不<sup>ふ</sup>作<sup>さく</sup>でも、年貢は米が<sup>ねんぐ</sup>百<sup>こめ</sup>俵<sup>ひゃつびょう</sup>だ。

0046: グエイエは、徹<sup>てつ</sup>夜<sup>や</sup>の激<sup>げき</sup>務<sup>む</sup>を<sup>の</sup>乗<sup>こ</sup>り越え、グウーグウーと<sup>ばく</sup>爆<sup>すい</sup>睡<sup>い</sup>だ。

0047: ドラゴンキラーでヒュドラの皮膚を<sup>ひ</sup>貫<sup>ふ</sup>け<sup>つらぬ</sup>。

0048: クアーチは怪<sup>あや</sup>しげなセミナーで、マキャヴェリズムにどっぷり<sup>そ</sup>染<sup>そ</sup>まった。

0049: ベゾツツイが、白<sup>びやく</sup>夜<sup>や</sup>の夜<sup>よる</sup>にプロポーズすると、覚<sup>かく</sup>悟<sup>ご</sup>を決<sup>き</sup>める。

0050: バルヒェットは手<sup>しゅ</sup>術<sup>じゅ</sup>後<sup>つご</sup>に、グオーグオーとイビキを<sup>ね</sup>かいて<sup>ね</sup>寝<sup>ね</sup>る。

0051: 努<sup>どり</sup>力<sup>りよく</sup>が成<sup>じょう</sup>就<sup>じゅ</sup>すると限<sup>かぎ</sup>らないが、だからサボる<sup>りゆう</sup>理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>になるわけじゃない。

0052: フラフラしてても、クェスブを決<sup>けつ</sup>して<sup>あなど</sup>侮<sup>あなど</sup>るな。

0053: ポムピューレの画<sup>が</sup>像<sup>ぞう</sup>はピニョッティの著<sup>ちやう</sup>作<sup>さく</sup>物<sup>ぶつ</sup>だが、フェアユースで<sup>しょう</sup>使用<sup>しよう</sup>できる。

0054: あいつの名<sup>な</sup>前<sup>まえ</sup>は<sup>なまえ</sup>チュクウディエベレだ。

0055: アマッテヤが、チュニジアでヴァカンスをエンジョイする。

0056: ギヤレットのスキヤンダルは、ニュースバリューが<sup>ばつぐん</sup>抜<sup>ばつぐん</sup>群<sup>ぐん</sup>です。

0057: ムシェズィプの息<sup>むすこ</sup>子<sup>こ</sup>が、オギャーオギャーと<sup>もと</sup>ミ<sup>もと</sup>ルクを<sup>もと</sup>求<sup>もと</sup>める。

0058: リュブリャナは、語<sup>ご</sup>学<sup>がく</sup>力<sup>りよく</sup>さえあれば、誰<sup>だれ</sup>でもウエルカムな<sup>とし</sup>都<sup>とし</sup>市<sup>し</sup>です。

0059: キェシェクが奇<sup>き</sup>襲<sup>しゅう</sup>を<sup>くわだ</sup>企<sup>くわだ</sup>てても、我<sup>わ</sup>が<sup>ぐん</sup>軍<sup>ぐん</sup>のレーダーが<sup>ほそく</sup>捕<sup>ほそく</sup>捉<sup>とく</sup>できる。

0060: 普<sup>ふ</sup>段<sup>だん</sup>飄<sup>ひょう</sup>々<sup>ひょう</sup>としたキャラが屈<sup>くつ</sup>指<sup>し</sup>の強<sup>つよ</sup>さを<sup>ほこ</sup>誇<sup>ほこ</sup>るのは、フィクションの鉄<sup>てつ</sup>板<sup>ばん</sup>ネタでね。

0061: 僕はジビエに積極的だが、食中毒になり、救急車で運ばれた過去がトラウマだ。

0062: ファビュラスのニュアンスを、スティーヴの母語で伝えるのが難しい。

0063: スグウェニャに不時着できる確率は、フィフティーフィフティーだ。

0064: リヒエンツァは、自らに課した掟を厳しく遵守する。

0065: デュクリュエは、楽器ならチューバとオーボエがお気に入りだとか。

0066: 同じ失敗を懲りずに繰り返す、グイーディへのアドバイスは無駄だろ？

0067: ヴォディツェの岸辺で、穏やかな波をバックにピューピューと笛を鳴らす。

0068: フーデェの事業は、赤字と黒字がごちゃ混ぜだと秘書が嘆く。

0069: サルミャーエは、エグゼクティブやラグジュアリーなどのキーワードに目敏い。

0070: クォーリーはフィギュアスケートのホープで、トリプルアクセルが見せ場だ。

0071: 俺はアラルテョベに修行へ向かうが、ジョウエルは置いてゆく。

0072: 肺炎で息苦しいので、授業は休ませて頂きます。

0073: スイミョーンが、クォーティアーで勤行する。

0074: ペリェシャツのラジオ番組で、レギュラーに選出されました。

0075: ピニェーダは、チューハースフェルトからピュットラハへ引っ越した。

0076: アヨーダーは、合掌でも身のこなしがキビキビしてた。

0077: オノマトペでは、チューチューはネズミで、ピヨピヨはヒヨコです。

0078: クィエトウス作のピニャコラーダは、実に滋味に富む味わいだった。

0079: バビャコヴァーは、発病した捕虜を手厚く保護した。

0080: フュジットがセアカゴケグモに咬まれ、発熱し寝込む。

- 0081: チョコレートフォンデュは<sup>めづら</sup>珍<sup>きわ</sup>しいので、ひと<sup>お</sup>際<sup>ひと</sup>大きな人だからができますよ？
- 0082: チャームクォークは、サミュエルらが突<sup>つ</sup>き止<sup>と</sup>めた素<sup>そ</sup>粒<sup>りゅうし</sup>子である。
- 0083: ビヨグデヨルは、ウィキペディアで引<sup>ひ</sup>っか<sup>た</sup>かる単<sup>たん</sup>語<sup>ご</sup>だが、よくわからぬ。
- 0084: 作<sup>さく</sup>物<sup>もつ</sup>への被害<sup>ひがい</sup>は、ゲリラ豪<sup>ごう</sup>雨<sup>う</sup>もだけど、梅<sup>つ</sup>雨<sup>ゆ</sup>時<sup>じ</sup>期<sup>き</sup>は、むしろ淫<sup>いん</sup>雨<sup>う</sup>に苦<sup>く</sup>慮<sup>りょ</sup>する。
- 0085: メッツォアングエがクゥーとすり寄<sup>よ</sup>り、プラムデヤが口<sup>くち</sup>を綻<sup>ほころ</sup>ばせた。
- 0086: アルファベットのキューやエックスは、特<sup>とく</sup>別<sup>べつ</sup>に扱<sup>あつか</sup>わ<sup>き</sup>れる気がする。
- 0087: 津<sup>しん</sup>液<sup>えき</sup>不足<sup>ぶそく</sup>で目<sup>め</sup>がぼやけてきた。
- 0088: ピョジュがネゴシエーターとなり、無<sup>む</sup>差<sup>さ</sup>別<sup>べつ</sup>テロのリーダ<sup>せつ</sup>ーへ説<sup>とく</sup>得<sup>とく</sup>を試<sup>こころ</sup>みる。
- 0089: イェヌーフアのウォッシュャブルスーツは安<sup>やす</sup>物<sup>もの</sup>で、すぐ毛<sup>け</sup>羽<sup>ば</sup>立<sup>だ</sup>ちボロボロになるだろう。
- 0090: フュージョンがかかった小<sup>こ</sup>洒<sup>じゃ</sup>落<sup>れ</sup>たカフエで、ビュッフェを<sup>たの</sup>楽しむ。
- 0091: ヒュバートの人<sup>ひと</sup>柄<sup>がら</sup>は、宿<sup>しゅく</sup>敵<sup>てき</sup>のジョゼフイーヌも認<sup>みと</sup>める。
- 0092: 安<sup>やす</sup>っぽい布<sup>ぬ</sup>の頭<sup>ときん</sup>巾<sup>ぎん</sup>だが、夜<sup>よ</sup>なべで手<sup>て</sup>作<sup>づく</sup>りした母<sup>はは</sup>の真<sup>ま</sup>心<sup>ごころ</sup>が有<sup>あり</sup>難<sup>がた</sup>い。
- 0093: テュペロは仮<sup>け</sup>病<sup>びょう</sup>で抜<sup>ぬ</sup>け出<sup>だ</sup>し、アツアツのスペツツァティーノを祖<sup>そ</sup>母<sup>ぼ</sup>に届<sup>とど</sup>けた。
- 0094: ツェティニエを<sup>おとず</sup>訪<sup>あつ</sup>れるなら、厚<sup>あ</sup>手<sup>て</sup>のコーデュロイジャケッ<sup>き</sup>トを着<sup>き</sup>るべきだ。
- 0095: ビェロヴツィナで略<sup>りゃく</sup>奪<sup>だつ</sup>が起<sup>お</sup>きぬよう、キューザックは物<sup>ぶつ</sup>資<sup>し</sup>のストッ<sup>ちゅう</sup>クに注<sup>い</sup>意<sup>い</sup>する。
- 0096: 初<sup>しょ</sup>夏<sup>か</sup>のジロヴニツァで雪<sup>ゆき</sup>が降<sup>ふ</sup>るとは、由<sup>ゆ</sup>々<sup>ゆ</sup>しき事<sup>こと</sup>だ。
- 0097: ヴェネツィアーノが寝<sup>ね</sup>惚<sup>ぼ</sup>けて、うっか<sup>ひみつ</sup>り秘<sup>し</sup>密<sup>やべ</sup>を喋<sup>しゃべ</sup>った。
- 0098: お前<sup>まえ</sup>さん、ベルデヤエフのアッパ<sup>あご</sup>ーが顎<sup>あご</sup>にヒッ<sup>に</sup>トしたら、二<sup>に</sup>度<sup>ど</sup>と起<sup>お</sup>き上<sup>あ</sup>がれんよ。
- 0099: シゴズィは、かすれ<sup>ごえ</sup>声<sup>へ</sup>で減<sup>ぐち</sup>らず口<sup>た</sup>を叩<sup>たた</sup>く。
- 0100: タルクイーニは、塾<sup>じゅく</sup>でシュヴァルツシルト半<sup>はん</sup>径<sup>けい</sup>を学<sup>まな</sup>ぶ。
- 0101: ズギェシが出<sup>しゅ</sup>世<sup>つせ</sup>し、所<sup>しょ</sup>属<sup>ぞく</sup>部<sup>ぶ</sup>署<sup>しょ</sup>が変<sup>か</sup>わったが、実<sup>じつ</sup>質<sup>しつ</sup>的<sup>てき</sup>な左<sup>さ</sup>遷<sup>せん</sup>らしい。

0102: ピアツァは持病が<sup>じびょう</sup>悪化し<sup>あつか</sup>危篤となり、<sup>きとく</sup>脈も<sup>みやく</sup>弱々<sup>よわよわ</sup>しくなってきた。

0103: 小鳥が<sup>ことり</sup>巣<sup>す</sup>から<sup>かお</sup>ピョコピョコと<sup>だ</sup>顔を出し、<sup>えさ</sup>餌<sup>ねだ</sup>を強請る。

0104: ノヴォデヴィツァ村に、<sup>むら</sup>三<sup>さん</sup>百<sup>びやく</sup>メートルはあるオシャレな<sup>はし</sup>橋<sup>か</sup>が架かった。

0105: まあ、グエンフォーが<sup>ふんがい</sup>憤慨<sup>むり</sup>するのも無理はない。

0106: ヴィニョーラとグォリーのタッグは、<sup>むてき</sup>無敵<sup>す</sup>過ぎるだろ。

0107: ピヤニーガの居酒屋で、ヴォラピュクとゲラゲラ<sup>わら</sup>笑う。

0108: グィードって、ジャパニーズだけでなく、<sup>ご</sup>チェマウエビ語<sup>ご</sup>までペラペラだって？

0109: グックァさん、パイクウミエンを<sup>つよび</sup>強火<sup>こ</sup>で焦がしちゃダメだぞ？

0110: でっばりに<sup>つまず</sup>躓<sup>ころ</sup>いて<sup>ころ</sup>転び、バニラシェイクをペルシャカーペットにぶちまけドロドロだ。

0111: コジエドゥーブは、パーフェクトな<sup>じつりよくしや</sup>実力者<sup>ぎやく</sup>で、<sup>ぎやく</sup>逆<sup>ぎやく</sup>にムカつく。

0112: <sup>ねんちゃく</sup>粘着<sup>ま</sup>テープでグルグル<sup>にもつ</sup>巻き<sup>おく</sup>にして、荷物を送る。

0113: アクションゲームは<sup>にがて</sup>苦手だが、コンティニューがあればクリアできる。

0114: グィディッチオーニは、<sup>ひごろ</sup>日頃<sup>ひごろ</sup>ポシエットにおやつをキープしています。

0115: サチャパルは、<sup>にんき</sup>タピオカ<sup>みぬ</sup>人気<sup>べつ</sup>のかげり<sup>てんぼ</sup>を見<sup>くらが</sup>抜き、別の店舗に鞍替えした。

0116: <sup>はで</sup>派手な<sup>みずぎ</sup>水着<sup>みずぎ</sup>のギャロップは、プライベートプールで<sup>ゆ</sup>ゆらゆら<sup>ゆ</sup>揺れる。

0117: 先程の鬼手で、<sup>さきほど</sup>グラニエシュと<sup>きしゆ</sup>ティテュバの<sup>さ</sup>差<sup>ちぢ</sup>が縮まった。

0118: <sup>どくとく</sup>独特<sup>で</sup>のムラ<sup>すみぞ</sup>が出る<sup>きじ</sup>墨染<sup>きじ</sup>めの生地<sup>きじ</sup>に、<sup>わざ</sup>ビューフィルス<sup>ひか</sup>の技<sup>わざ</sup>が光る。

0119: ブンチャビーは、<sup>あつりよくなべ</sup>圧力鍋<sup>あつりよくなべ</sup>やフードプロセッサーでの<sup>はばひろ</sup>レパートリー<sup>はばひろ</sup>が幅広い。

0120: 寮母の<sup>りょうぼ</sup>ナイデョーノフが、<sup>しょうてご</sup>初手<sup>ご</sup>五ノ五<sup>かんきやく</sup>で<sup>どぎも</sup>観客<sup>ぬ</sup>の度肝<sup>ぬ</sup>を抜いた。

0121: レトロな<sup>かく</sup>格ゲー<sup>かく</sup>で、<sup>ごぶ</sup>ハルテュニャンと<sup>たたか</sup>ウォキエトクヴナが、<sup>く</sup>五分<sup>ひろ</sup>の戦<sup>ひろ</sup>いを<sup>ひろ</sup>繰り<sup>ひろ</sup>広げる。

0122: プロイエシュティのバーで、ブラッディメアリーをリクエストした。

- 0123: チェルクエッティの劇<sup>げ</sup>的<sup>きて</sup>な逆<sup>ぎゃく</sup>転<sup>てん</sup>勝<sup>しょう</sup>利<sup>り</sup>に、祝<sup>しゅく</sup>杯<sup>はい</sup>をあげましょ。
- 0124: ヴォーカルはグアヌで、ピアノ<sup>ばんそう</sup>伴奏<sup>ばんそう</sup>はチェルクオツツイです。
- 0125: ヒエティルとピヴァリッチのアイディアは、率<sup>そつちよく</sup>直<sup>ごじつ</sup>に五十歩<sup>ひゃつぽ</sup>百歩<sup>ひゃくぽ</sup>です。
- 0126: ドゥブラヴカが拳<sup>こぶし</sup>を握<sup>にぎ</sup>り、ヴェツォプと君<sup>きみ</sup>が代<sup>よ</sup>を熱<sup>あつ</sup>く歌<sup>うた</sup>った。
- 0127: ドウムナグウアルは腎<sup>じんぞう</sup>臓<sup>わる</sup>が悪<sup>わる</sup>く、アボカドや南<sup>かぼ</sup>瓜<sup>ちや</sup>をよ<sup>た</sup>く食<sup>く</sup>べる。
- 0128: サラリー据<sup>す</sup>え置<sup>お</sup>きで、トゥードゥーがプ<sup>わり</sup>ラ<sup>あ</sup>スじゃ、割<sup>わり</sup>に合<sup>あ</sup>わぬ。
- 0129: なるほど、ウィッデヤーの夢<sup>ゆめ</sup>は、素<sup>す</sup>手<sup>で</sup>白<sup>びや</sup>虎<sup>つこ</sup>を屠<sup>ほふ</sup>り去<sup>さ</sup>ることなのか？
- 0130: リュムキエヴィチがトロフィーを<sup>て</sup>手<sup>て</sup>に、ガッツポーズです。
- 0131: テヨミュルタムで火<sup>や</sup>傷<sup>けど</sup>した、傷<sup>きず</sup>口<sup>ぐち</sup>のガ<sup>は</sup>ーゼを剥<sup>は</sup>がした。
- 0132: 立場<sup>たちば</sup>が弱<sup>よわ</sup>い故<sup>ゆえ</sup>に、カンビヤーゾは憂<sup>う</sup>い目<sup>め</sup>にあうのです。
- 0133: ビューティーパーラーで、セミウェットな髪<sup>かみ</sup>型<sup>がた</sup>にセッ<sup>せ</sup>ットだね。
- 0134: ヴォデヤノーヴァが必<sup>ひ</sup>死<sup>っし</sup>で根<sup>ね</sup>回<sup>まわ</sup>しし、理<sup>り</sup>事<sup>じ</sup>を丸<sup>まる</sup>め込<sup>こ</sup>めた。
- 0135: ねえねえ、パストラミビーフがパサパサして、喉<sup>のど</sup>が渴<sup>かわ</sup>くよ。
- 0136: イェスパーはピュアだから、詐<sup>さ</sup>欺<sup>ぎ</sup>師<sup>し</sup>が騙<sup>だま</sup>すなど考<sup>かん</sup>え<sup>が</sup>の外<sup>そと</sup>だよ。
- 0137: テョーテョーと声<sup>こえ</sup>が響<sup>ひび</sup>くが、主<sup>あるじ</sup>のホ<sup>お</sup>ールラッヒヤーじゃなく、恐<sup>おそ</sup>らく野<sup>や</sup>鳥<sup>ちょう</sup>だ。
- 0138: 湯<sup>ゆ</sup>冷<sup>ざ</sup>まし向<sup>む</sup>けに、ミネラルウ<sup>び</sup>ォ<sup>ちく</sup>ーターを備<sup>び</sup>蓄<sup>ちく</sup>する。
- 0139: ほお、ボタン海<sup>え</sup>老<sup>び</sup>やオヒョウが、シャリと絶<sup>ぜつ</sup>妙<sup>みょう</sup>にマッ<sup>す</sup>チした寿<sup>し</sup>司<sup>し</sup>だ。
- 0140: おっと、ドウグオンはビシ<sup>き</sup>ョップの利<sup>よ</sup>きに、読<sup>よ</sup>み抜<sup>ぬ</sup>けがあ<sup>あ</sup>ったぞ。
- 0141: クェルチャは、メデューサが石<sup>せき</sup>化<sup>か</sup>させると恐<sup>おそ</sup>れ、ギユ<sup>ひと</sup>つと瞳<sup>み</sup>を閉<sup>と</sup>じた。
- 0142: リヴァーディは水<sup>みず</sup>たまりに飛<sup>と</sup>び込<sup>こ</sup>み、服<sup>ふく</sup>をビシ<sup>よ</sup>ビシ<sup>よ</sup>に汚<sup>よご</sup>した。
- 0143: 今<sup>いま</sup>はヴォクリューズでプロデューサーや<sup>や</sup>って<sup>る</sup>よ。

- 0144: ロディゲシィの写実画を、ゴージャスな額縁に入れて飾る。
- 0145: ヴォコーダーの嚆矢が気になるなら、クィウオンパを訪ねろ。
- 0146: ヒュッレムは玉座に就けたが、プレッシャーに耐えかねフレッシュに譲った。
- 0147: ルミャンツェヴォの雑居ビルに、天邪鬼のビャウエクがオフィスを持つ。
- 0148: バニユルスでは、バッファローが主役の御伽噺が名高いです。
- 0149: ティディジは、飢えた子供にスパゲッティを奢った。
- 0150: インスペクターで、プロパティをパブリックにしても平気です。
- 0151: ふむ、グォーフエイも一緒だし、先祖の墓に詣でるか。
- 0152: ヒューストンの広場で、ミャーミャーと白猫が甘えてきた。
- 0153: マクドナルドなら、ダブチよりフィレオフィッシュかな。
- 0154: 極太スピーカーケーブルをスターカッド接続でチューニングし、ジャズが艶やかだ。
- 0155: 若しくは、ミュフィデとイエギシェのペアなら勝ち目があるかも。
- 0156: デョーちゃんは下痢で遅刻だから、ヴラトゥコさんとディズニーに行こ？
- 0157: 土砂降りで床がびちゃびちゃになった。
- 0158: ヴェネツィアで遊ぶなら、やっぱりドルソドゥロでしょ。
- 0159: ミェートニエルをヒューヒューと冷やかすのは、お止めなさい。
- 0160: それこそカチュビューイにうってつけの業務じゃありませんか、ギュスターヴ？
- 0161: これはパズルで泥沼にはまり、ポロポロ泣くデュヴェルジェの図。
- 0162: ポロシャツはベージュローゼのペイズリー、髪もボディパーマでボリューミーと、  
大分垢抜けたね。
- 0163: えーと、ピエンウィライの略歴に、妙な点があるのだけど。



0164: むざむざチャンスをつぶしたビエリーイエフは、あとあとつ後々詰められた。

0165: めんぼくなきやくあしにぶ鈍<sup>にぶ</sup>って、誤差だ<sup>ごさ</sup>と侮<sup>あなど</sup>ってた。

0166: かわぐつはし革靴<sup>はし</sup>で走れば、そりゃあずっこけるなあ。

0167: しゅびりよくきたフュレは守備力を鍛え、ツァウニャはこうげきりよくとつか攻撃力<sup>こうげきりよく</sup>に特化し、パラメータをわり振る<sup>わりふ</sup>。

0168: ヴァスィーリョヴィチュは、セパタクローの<sup>みょうしゅ</sup>妙手<sup>みょうしゅ</sup>だった。

0169: しっちゅズブズブと湿地を往く、ヘッフェルフィンガーの<sup>もくてきち</sup>目的地<sup>もくてきち</sup>はピゾーニエ。

0170: なぞ謎<sup>なぞ</sup>のヴェールに<sup>つつ</sup>包まれたギャングのボスが<sup>すがた</sup>姿<sup>すがた</sup>を<sup>あらわ</sup>現し、<sup>した</sup>下っ端<sup>した</sup>が<sup>ば</sup>ひれ伏<sup>ふ</sup>した。

0171: くんサピエジナ君<sup>くん</sup>、<sup>ひゃく</sup>百<sup>ひゃく</sup>の<sup>くらい</sup>位<sup>くらい</sup>で<sup>ししやごにゆう</sup>四捨五入<sup>ししやごにゆう</sup>したまえ。

0172: <sup>せんれつほへい</sup>戦列歩兵<sup>せんれつほへい</sup>の<sup>しやうごう</sup>トゥトゥシュ<sup>しやうごう</sup>が、<sup>え</sup>フューズィリエ<sup>え</sup>の<sup>しょうごう</sup>称号<sup>しょうごう</sup>を得る。

0173: こうさつウェイスィーが<sup>こうさつ</sup>絞殺<sup>こうさつ</sup>され、<sup>ざんぎやく</sup>残酷<sup>ざんぎやく</sup>で<sup>ゆる</sup>許しがたいと<sup>いぞく</sup>遺族<sup>いぞく</sup>が<sup>いか</sup>怒りに<sup>ふる</sup>震えた。

0174: <sup>ぬえとくい</sup>塗り絵<sup>ぬえとくい</sup>が得意な<sup>りっぱ</sup>アーケツト<sup>りっぱ</sup>は、<sup>まんがか</sup>きっと立派な漫画家<sup>まんがか</sup>になるだろう。

0175: <sup>じんじゅつ</sup>ドーヴェルニユ<sup>じんじゅつ</sup>は、<sup>た</sup>仁術<sup>た</sup>に<sup>けつぶつ</sup>長けた傑物<sup>けつぶつ</sup>だ。

0176: <sup>みりよく</sup>ヴェスィエールの魅力<sup>みりよく</sup>は、<sup>え</sup>にこやかな笑み<sup>え</sup>と<sup>かみかざ</sup>シルバーの髪飾り<sup>かみかざ</sup>です。

0177: <sup>さま</sup>デヴォグィラ様<sup>さま</sup>、<sup>ほんじつ</sup>本日のディナー<sup>ほんじつ</sup>で<sup>ござ</sup>御座<sup>ござ</sup>います。

0178: <sup>あぶら</sup>チョレギサラダ<sup>あぶら</sup>は、<sup>かお</sup>ごま油<sup>かお</sup>の<sup>ひ</sup>香りで<sup>た</sup>キュウリ<sup>ひ</sup>が引き立つ。

0179: <sup>おもしろ</sup>ウィキクォート<sup>おもしろ</sup>や<sup>ことわざ</sup>ウィクシヨナリー<sup>ことわざ</sup>に、面白<sup>おもしろ</sup>い<sup>ことわざ</sup>諺<sup>ことわざ</sup>があった。

0180: <sup>きき</sup>ウィウイシット<sup>きき</sup>が<sup>さっち</sup>危機<sup>さっち</sup>を察知して、<sup>ひなん</sup>ウォロドゥーグー<sup>ひなん</sup>の<sup>ひなん</sup>ヴィラ<sup>ひなん</sup>に避難した。

0181: <sup>ひとごと</sup>人里<sup>ひとごと</sup>に<sup>ひそ</sup>潜む人<sup>ひそ</sup>食<sup>ひとく</sup>い<sup>ぐま</sup>熊<sup>くじょ</sup>の<sup>あたまかず</sup>駆除<sup>あたまかず</sup>なら、<sup>ふ</sup>もっと頭数<sup>ふ</sup>を増やすべきだろ。

0182: <sup>はなばな</sup>クェジュ<sup>はなばな</sup>はメジャーレーベルのミュージシャンで、<sup>はなばな</sup>ディスコグラフィ<sup>はなばな</sup>ーも華々しい。

0183: <sup>きろく</sup>ベストウージェフ<sup>きろく</sup>は、<sup>こ</sup>プロフェッサーキューブ<sup>こ</sup>でヨーロッパ記録<sup>こ</sup>を超えた。

0184: <sup>きょじゅう</sup>ブレイジツェ<sup>きょじゅう</sup>に<sup>ともだち</sup>居住するリエトゥヴォス<sup>ともだち</sup>は、<sup>ともだち</sup>ポジティブな友達<sup>ともだち</sup>です。

- 0185: やっぱクアッドコアでのパラレル<sup>しより</sup>処理は、スリーディーグラフィックスも爆<sup>ばく</sup>速<sup>そく</sup>だねえ。
- 0186: 伊弉諾<sup>いざなぎじんぐう</sup>神宮は、淡路市<sup>あわじし</sup>にあるぞ。
- 0187: ツェルクヴェニャクのパノラマを、セピアのフィルムに<sup>や</sup>焼<sup>つ</sup>き付ける。
- 0188: フィラデルフィアでファストフードなら、やはりドムドムバーガーか。
- 0189: フューチャーベースは、ダンスミュージックに<sup>い</sup>位<sup>ち</sup>づけられる。
- 0190: ヴィタニエの大規模<sup>だいきぼ</sup>コミュニティに、クイリチが<sup>かに</sup>加<sup>ゆう</sup>入した。
- 0191: ファティマは、床屋でミディアムヘアをボブに<sup>と</sup>と<sup>の</sup>整<sup>け</sup>え、毛先<sup>けさき</sup>をポピーレッドに<sup>そ</sup>染めた。
- 0192: アグニューはスズメバチに<sup>さ</sup>刺され、アナフィラキシーショックで<sup>た</sup>倒れた。
- 0193: 頬肉<sup>ほほにく</sup>は柔<sup>やわ</sup>らかく、煮込<sup>に</sup>むと絶品<sup>ぜっぴん</sup>の舌触<sup>したざわ</sup>りですね。
- 0194: ビャウイストクは<sup>あ</sup>こ<sup>が</sup>憧<sup>ばしよ</sup>れの場所<sup>つぎ</sup>で、ニュー YORK の次<sup>りょこう</sup>に旅行したいね。
- 0195: ブツブツ愚痴<sup>ぐち</sup>ってるが、タブーは<sup>お</sup>か<sup>か</sup>冒すべからずだよ、ミスタープロビエジュ。
- 0196: ピャオが一<sup>ひ</sup>は<sup>と</sup>だぬ肌脱<sup>は</sup>ぎ、プロデョース旗揚<sup>は</sup>げを<sup>さ</sup>支えた。
- 0197: ガイアシュペヘラーのメロディーは、どこかノスタルジーだ。
- 0198: セブントウウエンティ、フリップウィップからスリーシックスティへ<sup>つ</sup>繋<sup>な</sup>ぐ。
- 0199: ズヴェーヴォは、ウォシュレットは必<sup>ひつじゅひん</sup>需品だと、フォリニャーノのデパートを<sup>かいちく</sup>改築した。
- 0200: ビェニャク殿、敵<sup>どの</sup>の戦<sup>てき</sup>力<sup>せんりょく</sup>は、六<sup>ろ</sup>百<sup>びゃく</sup>から八<sup>は</sup>百<sup>びゃく</sup>です。
- 0201: テョバニがテャーテャー鳴<sup>な</sup>く不思議<sup>ふしぎ</sup>な鳥<sup>とり</sup>を<sup>は</sup>っ<sup>けん</sup>見し、学<sup>が</sup>会<sup>つかい</sup>で<sup>は</sup>っ<sup>びょう</sup>表した。
- 0202: エーミャピューが<sup>ひゃく</sup>百<sup>ひろ</sup>ドル拾<sup>り</sup>い、律儀<sup>りちぎ</sup>に持<sup>も</sup>ち主<sup>ぬし</sup>を<sup>さ</sup>探した。
- 0203: プラズマが<sup>か</sup>関<sup>か</sup>わるプロジェクトなら、エヴギェーニイさえ<sup>く</sup>加<sup>わ</sup>わればな一。
- 0204: パスカリーノに、ペスカトーレのピッツァとウイスキーを<sup>わ</sup>た<sup>た</sup>渡してきて。
- 0205: ある日<sup>ひ</sup>、クウイリーヌスは、何気<sup>なにげ</sup>なく学<sup>がく</sup>者<sup>しゃ</sup>への道<sup>みち</sup>を<sup>こ</sup>志<sup>ころざ</sup>した。

- 0206: 確<sup>たし</sup>かアウィツォトルは、アグエパネラが好<sup>こうぶつ</sup>物だったっけ。
- 0207: ビューマーは、密閉<sup>みつぺいがた</sup>型ヘッドセットで、ビデオチャットに没<sup>ぼつにゆう</sup>入する。
- 0208: ベルトが摩<sup>ま</sup>耗<sup>もう</sup>し千切<sup>ちぎ</sup>れたら、ギュリッポスに換<sup>か</sup>えてもらって。
- 0209: 師走<sup>しはす</sup>にラボで牛<sup>ぎゅう</sup>乳<sup>にゅう</sup>を配<sup>くば</sup>り、ついでにグアテマラのコーヒー豆<sup>まめ</sup>で、  
カプチーノも作<sup>つく</sup>ってみた。
- 0210: キャパオーバーでスケジュールが破綻<sup>はたんぎみ</sup>気味なので、ヘルプを頼<sup>たの</sup>む。
- 0211: シェミエノヴィチが、ニューウェイヴにはまったってマジで？
- 0212: いや、ポルフィリオスは絶<sup>ぜったい</sup>対<sup>ちやくしゆつし</sup>に嫡出<sup>ちやくしゆつし</sup>子ですって。
- 0213: モロに石田流崩<sup>いしだりゆうくず</sup>しの筋<sup>すじ</sup>で、香<sup>きよう</sup>車<sup>しゃ</sup>の一手<sup>いって</sup>まで流<sup>なが</sup>れるな。
- 0214: ダリユーゲの身勝手<sup>みがって</sup>なプロポーザルに、呆<sup>あき</sup>れ果<sup>は</sup>てました。
- 0215: ツェルクヴェニャクへの視察<sup>しさつ</sup>の途<sup>とちゆう</sup>中で、シェントイェルニエイに寄<sup>よ</sup>る。
- 0216: はじめまして、教<sup>きよう</sup>授<sup>じゆ</sup>の末<sup>まつ</sup>席<sup>せき</sup>を汚<sup>けが</sup>す、ラドゥロヴィチです。
- 0217: 小<sup>ちい</sup>さいパパラチアサファイアだが、ラピスラズリ並<sup>な</sup>みに高<sup>たか</sup>いぜ。
- 0218: さあ、ウィルヒョーの屋敷<sup>やしき</sup>に出<sup>しゆ</sup>発<sup>ぱつ</sup>だ。
- 0219: プツオンツィで、シュアイジャオを極<sup>きわ</sup>めるぞ。
- 0220: ブレゾヴィツァで悪事<sup>あくじ</sup>を謀<sup>はか</sup>ると、即座<sup>そくざ</sup>に捕縛<sup>ほぼく</sup>されるぜ？
- 0221: ギラギラとした日差<sup>ひざ</sup>しの中<sup>なか</sup>、チグウはスクォミッシ語<sup>ご</sup>を話<sup>はな</sup>す。
- 0222: スイトジェフティは、微々<sup>びび</sup>たるミスで受<sup>じゆしやう</sup>賞<sup>しょう</sup>を逃<sup>のが</sup>し、悔<sup>くや</sup>し涙<sup>なみだ</sup>が頬<sup>ほお</sup>を伝<sup>つた</sup>う。
- 0223: フェデリコが、ギャラアッパをディレクターに掛<sup>か</sup>け合<sup>あ</sup>ったが、却<sup>きやつか</sup>下された。
- 0224: ウイドウイドとは、甚<sup>はなは</sup>だ遠<sup>とお</sup>い街<sup>まち</sup>から久々<sup>ひさびさ</sup>の客<sup>きやく</sup>だぜ。
- 0225: ヴォルピヤーノのディナーは、チップ込み<sup>こ</sup>で五<sup>ご</sup>百<sup>ひゃく</sup>ユーロでした。

0226: 枝垂れ<sup>しだ</sup> 柳<sup>やなぎ</sup> を目印<sup>めじるし</sup>に、真直ぐ<sup>まっす</sup> 進め<sup>すす</sup>。

0227: 茗荷谷<sup>みょうがだに</sup> からメトロに<sup>の</sup> 乗り継ぎ<sup>つ</sup>で、荻窪<sup>おぎくぼ</sup> まで直<sup>ちよっこう</sup> 行<sup>こう</sup> ですね。

0228: ジトミーエシュが、マニュアルに<sup>したが</sup> 従<sup>したが</sup> っ<sup>つ</sup>て、フォークリフトで土<sup>つち</sup>を<sup>はこ</sup> 運ぶ<sup>はこ</sup>。

0229: カラデュウェが、河魚腹疾<sup>かぎよのふくしつ</sup> とならぬよう、デミードヴァ<sup>じんりよく</sup> が尽<sup>じんりよく</sup> 力<sup>りよく</sup> する。

0230: ドゥブオーニュは旅費<sup>りょひ</sup>を見誤<sup>みあやま</sup>り、自腹<sup>じばら</sup>でカバーする。

0231: 繭<sup>まゆ</sup>の内側<sup>うちがわ</sup>に虫<sup>むし</sup>が<sup>し</sup> いると知<sup>し</sup>り、シュテヒャーはゾ<sup>し</sup>っとした。

0232: プロゴルファーのネマツァデ<sup>おやじ</sup>は、へボ親父<sup>ひやく</sup>でも百<sup>き</sup> のスコアを切<sup>き</sup> れると豪語<sup>ごうご</sup> する。

0233: 明<sup>みょうちよう</sup> 朝<sup>もみじが</sup> から紅葉狩<sup>きよう</sup>りに興<sup>ご</sup> じ、午後<sup>ご</sup>は自室<sup>じしつ</sup>でカトリエーティ<sup>じしつ</sup>でも。

0234: わざわざクエードに寝酒<sup>ねざけ</sup>をあげるとは。

0235: トニヤツツイもアラフォーとなり、発言<sup>はつげん</sup>の刺々<sup>とげとげ</sup>しさが減<sup>へ</sup>り、丸<sup>まる</sup> くなったな。

0236: ンゼオグウがグビグビとビールをイッキ<sup>はくしゅ</sup>し、ブラボーと拍手<sup>わ</sup>が沸<sup>わ</sup>いた。

0237: 私<sup>わたくし</sup> 事<sup>ごと</sup>で恐縮<sup>きようしゆく</sup> ですが、しばしお暇<sup>ひま</sup>を頂戴<sup>ちようだい</sup> したく存<sup>ぞん</sup> じます。

0238: ミエジェライティス<sup>ひとり</sup> 一人でライブ<sup>きやく</sup> やっても、客<sup>かく</sup> は確<sup>かく</sup> 実<sup>じつ</sup> に埋<sup>う</sup> まりますよ。

0239: アッスィーズィで、ヴァーチャルリアリティのアプリがリリースされた。

0240: マメダヤロフは、写経<sup>しゃきよう</sup> でメンタルをニュートラルに<sup>もど</sup> 戻<sup>もど</sup> せる。

0241: キューザを<sup>たぶら</sup> 誑<sup>たぶら</sup> かしたキャロルは、魔女<sup>まじよ</sup> の類<sup>たぐ</sup> いだぜ。

0242: 荒れ狂<sup>あ</sup> う嵐<sup>くる</sup> で、棧橋<sup>あらし</sup> にピタリと船<sup>さんばし</sup> を<sup>ふね</sup> つけるのは、私<sup>わたし</sup> でも不<sup>ふ</sup> 可<sup>か</sup> 能<sup>のう</sup> だよ。

0243: ボーナスをハイスペックコンピューターにつぎ込み、すでに<sup>こ</sup> 懐<sup>ふところ</sup> が寂<sup>さび</sup> しい。

0244: 紅<sup>くれない</sup> の豚<sup>ぶた</sup> は、グアツツオーニが<sup>もつと</sup> 最<sup>えいきよう</sup> も影<sup>えいが</sup> 響<sup>えいが</sup> されたジブリ映画です。

0245: チラヴェーニヤのヴォーカルデュオがのし上がり、メディア露出<sup>ろしゅつ</sup> で引<sup>ひ</sup> 張<sup>ば</sup> りだこだ。

0246: クィザンヌが、へそ曲<sup>ま</sup> がりのヴェツツェラを助<sup>じょしゆせき</sup> 手<sup>はまべ</sup> 席<sup>はまべ</sup> に、浜<sup>はま</sup> 辺<sup>べ</sup> へドライブだと。

0247: オーギュスティーヌが選んだ純白のドレスに、プラチナティアラが映える。

0248: ピスタチオジェラートが、ベディッツオーレでブームです。

0249: アダムとイヴで、ティツィアーノ・ヴェチェッリオの絵画を思い出す。

0250: 百合のパフュームを携えて、ベネトウッティの顧客とミーティングだ。

0251: ピエトリャコフは義理堅いから、ピンチになれば助けに来るさ。

0252: ソビエスカは、ストップウォッチを一分ピッタリで止められる。

0253: パウダースノーはスキーもスノボもべたつかず、極上の雪質だ。

0254: 月曜日は、エステティシヤンのユーリエヴナが、施術係だ。

0255: ヴィクトリーヌは、古今和歌集の芸術性に惚れ込む。

0256: グィナムのポジションはクォーターバックで、稀にディフェンシブエンドもやる。

0257: 職場で淫らなトピックはセクハラだぜ、セデーニョ。

0258: テグラシィーは、ヌプツェの頂を目指すと誓った。

0259: ディスポーザーがあれば、生ゴミを気軽に処分できます。

0260: 部下が寝返り、イエグノヴツェから夜逃げとは悲しいね。

0261: ラズィーヤの呟きに、六つの虚偽がある。

0262: ほら、コザーキはまだまだ口下手で、プレゼンなど無茶だってば。

0263: クレスチャンは、ノブレスオブリージュが貴族の義務だとスピーチした。

0264: 韓国で発祥したケーポップが、ビルボードチャートで首位になった。

0265: トゥーヒエンバツハなら、ここからプロペラ機のチャーターが安上がりだね。

0266: 肥溜めは江戸時代に利用されたが、現代では既に廃れた設備だ。

0267: ミュンヒェベルクは、ピエプシュをたっぷりかけたポーランド料理が好きだ。

- 0268: 萎<sup>いしゆく</sup>縮<sup>く</sup>せず、フェイゾーリオまで<sup>ぬ</sup>抜けなく<sup>しら</sup>調べるぞ。
- 0269: マリニャースの件なら、時局に<sup>けん</sup>鑑<sup>じきよく</sup>みて<sup>かんが</sup>決<sup>けってい</sup>定すべき。
- 0270: フュレプとエスティガリビヤが、連<sup>れんぞく</sup>続したデュースでまだ決<sup>けつちやく</sup>着しない。
- 0271: 鎖<sup>くさり</sup>に付いた鎌<sup>つ</sup>を、ズィーズィーは苦も<sup>かま</sup>無<sup>く</sup>くビュンビュン振<sup>な</sup>り回<sup>ふ</sup>す。
- 0272: ヴラセニツアのレセプションで盛<sup>も</sup>り上<sup>あ</sup>がったのは、ヒヨロヒヨロなペッツアーツェ。
- 0273: クィズイルツで採<sup>と</sup>れたブルーベリーは、格<sup>かく</sup>別<sup>べつ</sup>に美味<sup>うま</sup>い。
- 0274: そりゃー成果主義は、ヒューマニズムでトップになれる程<sup>ほどらく</sup>楽<sup>らく</sup>じゃないぜ。
- 0275: 蚊<sup>か</sup>に血<sup>ち</sup>をチューチュー吸<sup>す</sup>われたと、グィネスは腫<sup>は</sup>れた箇所<sup>かしよ</sup>にムヒを塗<sup>ぬ</sup>った。
- 0276: それで、ステューウィーが振<sup>ふ</sup>り飛<sup>び</sup>車<sup>しゃ</sup>にした狙<sup>ねら</sup>いは、シェミェンスキにバレバレでしたね。
- 0277: スポーツはやらぬが、競馬ならウイジャボードのファンだよ。
- 0278: 部屋<sup>へや</sup>に書<sup>しょ</sup>斎<sup>さい</sup>が欲<sup>ほ</sup>しいけど、スペースを圧<sup>あつぱく</sup>迫<sup>ぱく</sup>するからと、イエヒェルは首<sup>くび</sup>を縦<sup>たて</sup>に振<sup>ふ</sup>らない。
- 0279: 二世<sup>にせ</sup>を契<sup>ちぎ</sup>ると、ピョトロヴィツェは心<sup>こころ</sup>に刻<sup>きざ</sup>む。
- 0280: クオツパマキの略<sup>りやく</sup>歴<sup>れき</sup>は華<sup>はな</sup>やかだが、下戸<sup>げこ</sup>で酒癖<sup>さけぐせ</sup>が酷<sup>ひど</sup>い。
- 0281: アナグラムでスペクトラムがケプストラム、フリクエンシーがケフレンシー、  
フィルターがリフターか。
- 0282: ジェニファは、旦那<sup>だんな</sup>と口舌<sup>くぜつ</sup>が絶<sup>た</sup>えぬ一方、別居<sup>いっぼう</sup>もせず日々<sup>べっきよ</sup>を過<sup>ひび</sup>ごす。
- 0283: パティシエになるなら、ペティナイフの技<sup>ぎ</sup>術<sup>じゆつ</sup>も貪<sup>どん</sup>欲<sup>よく</sup>に会<sup>え</sup>得<sup>とく</sup>しなきゃ。
- 0284: グアルティエーロの業<sup>ぎよう</sup>績<sup>せき</sup>を、一<sup>ひと</sup>言<sup>こと</sup>で論<sup>ろん</sup>評<sup>びよう</sup>すればイマイチ。
- 0285: フォルテユナトゥスは無罪<sup>むざい</sup>を訴<sup>う</sup>えたが、結<sup>けつ</sup>局<sup>きよく</sup>禁錮<sup>きんこ</sup>五<sup>ご</sup>か月<sup>げつ</sup>であった。
- 0286: グォーグァへの旅<sup>たび</sup>なら、陸路<sup>りくろ</sup>がお勧<sup>すす</sup>めですね。
- 0287: グォリヤンの差<sup>さ</sup>し金<sup>がね</sup>で、新<sup>あら</sup>たな武<sup>ぶ</sup>道<sup>どう</sup>を興<sup>おこ</sup>すと？

0288: ピエユスクが、ピタパのオートチャージを<sup>あっぱ</sup>天晴れと<sup>ひょうか</sup>評価した。

0289: <sup>はだざわ</sup>肌触りにこだわり、<sup>はだぎ</sup>肌着はキュプラかポリエステルです。

0290: ツエツヒエは、<sup>ふじ</sup>不治の<sup>びょうき</sup>病気で<sup>ふ</sup>伏した<sup>やぼう</sup>ビョンギュの<sup>つ</sup>野望を継ぐ。

0291: キャロットのピュレがベースの、まろやかなポタージュスープをご<sup>たんのう</sup>堪能ください。

0292: ブグウは人混みをすり<sup>ひとご</sup>抜けながら、<sup>ぬ</sup>ウェグアン<sup>えき</sup>駅を<sup>ある</sup>ブラブラ歩く。

0293: ピツエッティは、<sup>わず</sup>僅かなハンディキャップさえあれば、プロと<sup>ごかく</sup>ほぼ互角か？

0294: <sup>よ</sup>読みやすく<sup>しっぴつ</sup>執筆された<sup>かいせつしょ</sup>解説書を、<sup>とくほん</sup>読本と呼ぶ。

0295: それならば、<sup>ここ</sup>個々が<sup>う</sup>でき得る<sup>じゅうぶん</sup>フォローでも十分では？

0296: ヴァシリェヴィッチはスタミナもあり、フォワードやミッドフィルダーもこなせるぜ。

0297: デグテャリョーフは、レポートの<sup>ちゅう</sup>チェック<sup>み</sup>中に<sup>げきど</sup>コピペを見つけ<sup>げきど</sup>激怒した。

0298: <sup>いりぐち</sup>入口のメニューだと、<sup>じか</sup>どのコースも<sup>じか</sup>時価だそうです。

0299: フィレンツェでは、<sup>さくひん</sup>ボッティチェリの<sup>きたい</sup>作品に期待してます。

0300: ディユドネって、サーモグラフィやシーティーで<sup>かし</sup>可視化された<sup>じんたい</sup>人体に<sup>ねっきょう</sup>熱狂するの。

0301: ローズクォーツのネックレスが、<sup>く</sup>ケラゴベの<sup>く</sup>トレードマークなのですね。

0302: <sup>きよくど</sup>極度の<sup>ひろう</sup>疲労からか、<sup>ひるま</sup>昼間からくうーくうーと、<sup>ねいき</sup>プロイェシュティの<sup>ねいき</sup>寝息がする。

0303: タロフュアが、<sup>さんみやく</sup>エスピニャソ<sup>みち</sup>山脈で、<sup>にく</sup>未知の<sup>え</sup>獣の肉を獲た。

0304: <sup>かく</sup>カンピョーネの<sup>が</sup>隠れ家で、<sup>め</sup>ラゾビッチに<sup>あ</sup>ボロネーゼを<sup>いただ</sup>召し上がって頂く。

0305: <sup>じつ</sup>ジェノヴェーゼって<sup>びみ</sup>実に<sup>まいにち</sup>美味で、<sup>く</sup>毎日でも<sup>く</sup>食いたいなー。

0306: <sup>ふにん</sup>ペヴェラーニョへの<sup>かくてい</sup>赴任が<sup>かくてい</sup>確定し、<sup>かくてい</sup>やれやれといったところか。

0307: <sup>しつれい</sup>失礼します、<sup>しつれい</sup>ヴェプショヴァー・<sup>ま</sup>ペチェニェで<sup>ま</sup>お待ちのお<sup>きやくさま</sup>客様。

0308: <sup>きじ</sup>パティーニョの<sup>きじ</sup>記事は<sup>ふく</sup>デマも<sup>ふく</sup>含むし、<sup>もうひょうたざい</sup>妄評<sup>まつび</sup>多罪と<sup>か</sup>末尾に書くべき。

0309: 来<sup>らい</sup>月<sup>げつ</sup>下<sup>げ</sup>旬<sup>じゅん</sup>から、元<sup>もと</sup>紺<sup>こん</sup>屋<sup>や</sup>町<sup>まち</sup>でア<sup>ア</sup>ーティ<sup>ティ</sup>テ<sup>テ</sup>ョーク<sup>ョーク</sup>の種<sup>たね</sup>を入<sup>い</sup>荷<sup>にゅうか</sup>する。

0310: デ<sup>デ</sup>ュ<sup>ュ</sup>ィン<sup>ィン</sup>には、へ<sup>や</sup>っ<sup>く</sup>ぽ<sup>しゃ</sup>こ<sup>こ</sup>役<sup>やく</sup>者<sup>しゃ</sup>っ<sup>や</sup>ぽ<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>エ<sup>エ</sup>ピ<sup>ピ</sup>ソ<sup>ソ</sup>ード<sup>ード</sup>が、山<sup>やま</sup>ほ<sup>ほ</sup>ど<sup>ど</sup>ある。

0311: イ<sup>い</sup>ェ<sup>ェ</sup>ヴ<sup>ヴ</sup>リ<sup>リ</sup>ッ<sup>さ</sup>チ<sup>ま</sup>様<sup>さま</sup>、マ<sup>ま</sup>グ<sup>ぎ</sup>ロ<sup>よ</sup>漁<sup>ふな</sup>船<sup>ふな</sup>で<sup>で</sup>の船<sup>に</sup>酔<sup>みち</sup>いは、逃<sup>に</sup>げ<sup>みち</sup>道<sup>みち</sup>が<sup>が</sup>ない<sup>じごく</sup>地<sup>じ</sup>獄<sup>ごく</sup>です。

0312: ヴ<sup>り</sup>ェ<sup>く</sup>ロ<sup>とう</sup>ー<sup>れ</sup>ゾ<sup>きし</sup>は<sup>は</sup>陸<sup>りく</sup>稲<sup>とう</sup>の<sup>の</sup>歴<sup>れ</sup>史<sup>きし</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>、ミ<sup>ミ</sup>ェ<sup>エ</sup>シ<sup>シ</sup>ュ<sup>ュ</sup>コ<sup>コ</sup>が<sup>が</sup>ビ<sup>ビ</sup>ュ<sup>ュ</sup>ー<sup>ー</sup>ティ<sup>ティ</sup>フル<sup>フル</sup>と<sup>と</sup>褒<sup>ほ</sup>めた。

0313: 原<sup>は</sup>っ<sup>ら</sup>ば<sup>ば</sup>で、グ<sup>グ</sup>ァ<sup>ァ</sup>ダ<sup>ダ</sup>ニ<sup>ニ</sup>ー<sup>ー</sup>ノ<sup>ノ</sup>と<sup>と</sup>ご<sup>ご</sup>ろ<sup>ろ</sup>寝<sup>ね</sup>し<sup>し</sup>グ<sup>グ</sup>ミ<sup>ミ</sup>を<sup>を</sup>噛<sup>か</sup>む。

0314: ホ<sup>ホ</sup>ミ<sup>ミ</sup>ャ<sup>ャ</sup>コ<sup>コ</sup>ーフ<sup>ーフ</sup>は、テ<sup>テ</sup>ュ<sup>ュ</sup>ゾ<sup>ゾ</sup>ー<sup>ー</sup>を<sup>を</sup>見<sup>み</sup>限<sup>かぎ</sup>り<sup>り</sup>リ<sup>リ</sup>ス<sup>ス</sup>ト<sup>ト</sup>ラ<sup>ラ</sup>した。

0315: 激<sup>げ</sup>辛<sup>き</sup>の<sup>の</sup>フ<sup>フ</sup>ォ<sup>ォ</sup>グ<sup>グ</sup>ォ<sup>ォ</sup>を<sup>を</sup>食<sup>しょく</sup>し、食<sup>しょく</sup>後<sup>ご</sup>も<sup>も</sup>し<sup>し</sup>ば<sup>ば</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>汗<sup>あせ</sup>が<sup>が</sup>引<sup>ひ</sup>か<sup>か</sup>ない。

0316: あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>ね<sup>ね</sup>、鮮<sup>せん</sup>魚<sup>ぎょ</sup>じ<sup>じ</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>魚<sup>さかな</sup>の<sup>の</sup>刺<sup>さ</sup>身<sup>しみ</sup>は、食<sup>しょく</sup>中<sup>ちゅう</sup>毒<sup>どく</sup>が<sup>が</sup>怖<sup>こわ</sup>い<sup>い</sup>です<sup>す</sup>って。

0317: 奴<sup>やつ</sup>の、マ<sup>マ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ヴィ<sup>ヴィ</sup>ー<sup>ー</sup>リ<sup>リ</sup>ャ<sup>ャ</sup>の<sup>の</sup>揚<sup>あ</sup>げ<sup>あ</sup>足<sup>し</sup>を<sup>を</sup>取<sup>と</sup>り<sup>り</sup>自<sup>じ</sup>説<sup>せつ</sup>を<sup>を</sup>プ<sup>プ</sup>ッ<sup>ッ</sup>シ<sup>シ</sup>ュ<sup>ュ</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>や<sup>や</sup>り<sup>り</sup>口<sup>くち</sup>、

あ<sup>あ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>さ<sup>さ</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>癩<sup>しゃく</sup>に<sup>に</sup>障<sup>さわ</sup>る<sup>る</sup>ね<sup>ね</sup>え。

0318: グ<sup>グ</sup>ィ<sup>ィ</sup>チャ<sup>チャ</sup>ンド<sup>ンド</sup>ウ<sup>ウ</sup>ー<sup>ー</sup>ト<sup>ト</sup>は、啓<sup>けい</sup>白<sup>びやく</sup>が<sup>が</sup>分<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>戸<sup>と</sup>惑<sup>まど</sup>った。

0319: イ<sup>い</sup>ェ<sup>ェ</sup>ヴ<sup>ヴ</sup>ティ<sup>ティ</sup>ッ<sup>っ</sup>チ<sup>ち</sup>は<sup>は</sup>額<sup>ひたい</sup>を<sup>を</sup>怪<sup>け</sup>我<sup>が</sup>し、病<sup>びょう</sup>院<sup>いん</sup>で<sup>で</sup>縫<sup>ぬ</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>ら<sup>ら</sup>った。

0320: 弑<sup>にげ</sup>撃<sup>き</sup>決<sup>けつ</sup>殺<sup>さつ</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>必<sup>ひ</sup>殺<sup>さつ</sup>技<sup>ぎ</sup>の<sup>の</sup>語<sup>ご</sup>感<sup>かん</sup>が<sup>が</sup>か<sup>か</sup>っ<sup>っ</sup>こ<sup>こ</sup>い<sup>い</sup>い。

0321: ピ<sup>ピ</sup>ェ<sup>ェ</sup>ル<sup>ル</sup>ヴォ<sup>ヴォ</sup>マイ<sup>マイ</sup>スク<sup>スク</sup>で<sup>で</sup>不<sup>ふ</sup>吉<sup>きつ</sup>な<sup>な</sup>出<sup>で</sup>来<sup>き</sup>事<sup>ごと</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>の<sup>の</sup>が<sup>が</sup>、シャ<sup>シャ</sup>ピ<sup>ピ</sup>ュ<sup>ュ</sup>イ<sup>イ</sup>サ<sup>サ</sup>の<sup>の</sup>予<sup>よ</sup>言<sup>げん</sup>。

0322: デ<sup>で</sup>ャ<sup>ャ</sup>デ<sup>で</sup>ュ<sup>ュ</sup>ンは<sup>は</sup>霧<sup>きり</sup>雨<sup>さめ</sup>で<sup>で</sup>眼<sup>め</sup>鏡<sup>がね</sup>が<sup>が</sup>曇<sup>くも</sup>り、泥<sup>ぬ</sup>濘<sup>かるみ</sup>で<sup>で</sup>滑<sup>すべ</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>ズ<sup>ズ</sup>ボ<sup>ボ</sup>ン<sup>ン</sup>も<sup>も</sup>グ<sup>グ</sup>シ<sup>シ</sup>ョ<sup>ョ</sup>グ<sup>グ</sup>シ<sup>シ</sup>ョ<sup>ョ</sup>だ<sup>だ</sup>った。

0323: グ<sup>グ</sup>ァ<sup>ァ</sup>ナ<sup>ナ</sup>ファ<sup>ファ</sup>ト<sup>ト</sup>で<sup>で</sup>秩<sup>ちつ</sup>序<sup>じょ</sup>を<sup>を</sup>無<sup>む</sup>視<sup>し</sup>した<sup>した</sup>ら<sup>ら</sup>ヤ<sup>ヤ</sup>バ<sup>バ</sup>イ<sup>イ</sup>よ<sup>よ</sup>、グ<sup>グ</sup>ァ<sup>ァ</sup>ン<sup>ン</sup>ギ<sup>ギ</sup>ュ<sup>ュ</sup>。

0324: ア<sup>あ</sup>ズ<sup>せ</sup>ィ<sup>ィ</sup>ー<sup>ー</sup>ザ<sup>ザ</sup>よ<sup>よ</sup>、焦<sup>あせ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>っ<sup>っ</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>や<sup>や</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>ょう<sup>ょう</sup>や<sup>や</sup>。

0325: フ<sup>ふ</sup>ェ<sup>ェ</sup>ザ<sup>ザ</sup>ー<sup>ー</sup>の<sup>の</sup>布<sup>ふ</sup>団<sup>とん</sup>です<sup>です</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>や<sup>や</sup>眠<sup>ねむ</sup>る<sup>る</sup>、ビ<sup>ビ</sup>ュ<sup>ュ</sup>ー<sup>ー</sup>ヒ<sup>ヒ</sup>ェ<sup>ェ</sup>ン<sup>ン</sup>バ<sup>バ</sup>ッ<sup>ッ</sup>ハ<sup>ハ</sup>が<sup>が</sup>幸<sup>しあわ</sup>せ<sup>せ</sup>そ<sup>そ</sup>う<sup>う</sup>。

0326: シ<sup>し</sup>ェ<sup>ェ</sup>ン<sup>ン</sup>キ<sup>キ</sup>ェ<sup>ェ</sup>ウ<sup>ウ</sup>ィ<sup>ィ</sup>ッ<sup>ッ</sup>ツ<sup>ツ</sup>は、フ<sup>フ</sup>ォ<sup>ォ</sup>ー<sup>ー</sup>カ<sup>カ</sup>ー<sup>ー</sup>ド<sup>ド</sup>に<sup>に</sup>チ<sup>ち</sup>ッ<sup>ッ</sup>プ<sup>プ</sup>を<sup>を</sup>全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>賭<sup>か</sup>けた。

0327: プ<sup>プ</sup>ロ<sup>ロ</sup>グ<sup>グ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ム<sup>ム</sup>の<sup>の</sup>コン<sup>コン</sup>パ<sup>パ</sup>イル<sup>イル</sup>よ<sup>よ</sup>り、フ<sup>フ</sup>ァ<sup>ァ</sup>ーム<sup>ーム</sup>ウ<sup>ウ</sup>ェ<sup>ェ</sup>ア<sup>ア</sup>の<sup>の</sup>ア<sup>ア</sup>ッ<sup>ッ</sup>プ<sup>プ</sup>デ<sup>デ</sup>ー<sup>ー</sup>ト<sup>ト</sup>が<sup>が</sup>先<sup>さき</sup>だ。

0328: ブ<sup>ブ</sup>ル<sup>ル</sup>ー<sup>ー</sup>ト<sup>ト</sup>ウ<sup>ウ</sup>ース<sup>ース</sup>の<sup>の</sup>オー<sup>オー</sup>ディ<sup>ディ</sup>オ<sup>オ</sup>レ<sup>レ</sup>シー<sup>シー</sup>バー<sup>バー</sup>が、良<sup>りょう</sup>コ<sup>コ</sup>ス<sup>ス</sup>パ<sup>パ</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>？



- 0329: ヒェロニムはケチで、真<sup>まなつ</sup>夏<sup>じゅつ</sup>でも十<sup>はな</sup>キロ離<sup>ひやっきん</sup>れた百<sup>はし</sup>均<sup>はし</sup>へ、チャリで走<sup>はし</sup>る。
- 0330: 随<sup>ずい</sup>分<sup>ぶん</sup>間<sup>ま</sup>抜<sup>ぬ</sup>けな話<sup>はなし</sup>だが、燃<sup>ねん</sup>費<sup>び</sup>を忘<sup>わす</sup>れ突<sup>つ</sup>っ走<sup>ばし</sup>り、砂<sup>さ</sup>漠<sup>ぼく</sup>でガ<sup>け</sup>ス<sup>つ</sup>欠<sup>け</sup>にな<sup>な</sup>っ<sup>な</sup>ち<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>った。
- 0331: 切<sup>き</sup>符<sup>ぷ</sup>を入<sup>い</sup>手<sup>て</sup>し、デ<sup>に</sup>ョ<sup>ゆう</sup>レ<sup>しゅ</sup>トバ<sup>しゅ</sup>グにゴ<sup>ご</sup>ーだ<sup>だ</sup>ぜ。
- 0332: ウォ<sup>な</sup>ラ<sup>ら</sup>ウ<sup>う</sup>ィは、習<sup>なら</sup>い事<sup>ごと</sup>で射<sup>しゃ</sup>撃<sup>げき</sup>と馬<sup>ば</sup>術<sup>じゆつ</sup>を続<sup>つづ</sup>けて<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る。
- 0333: 何<sup>な</sup>故<sup>ぜ</sup>、チ<sup>ひ</sup>ェ<sup>る</sup>ニ<sup>め</sup>シ<sup>し</sup>ェ<sup>し</sup>フは昼<sup>ひる</sup>飯<sup>めし</sup>がケ<sup>ま</sup>バ<sup>ま</sup>ブば<sup>ま</sup>かり<sup>ま</sup>なの？
- 0334: こ<sup>さ</sup>こ<sup>かい</sup>が、プ<sup>さ</sup>ロ<sup>かい</sup>フ<sup>め</sup>ェ<sup>い</sup>ッ<sup>め</sup>シ<sup>め</sup>ョ<sup>い</sup>ナ<sup>め</sup>ルとア<sup>め</sup>マ<sup>い</sup>チ<sup>め</sup>ュ<sup>い</sup>アと<sup>め</sup>の境<sup>め</sup>目<sup>い</sup>です<sup>め</sup>ね。
- 0335: 常<sup>つね</sup>に悩<sup>なや</sup>み<sup>なや</sup>が尽<sup>つ</sup>きぬシ<sup>ぼ</sup>ド<sup>の</sup>ウ<sup>う</sup>ォを、ド<sup>ぼ</sup>ウ<sup>の</sup>エ<sup>う</sup>ニ<sup>ぼ</sup>ヤ<sup>だ</sup>スが煩<sup>はげ</sup>悩<sup>はげ</sup>菩<sup>はげ</sup>提<sup>はげ</sup>だと励<sup>はげ</sup>ま<sup>はげ</sup>した。
- 0336: パ<sup>は</sup>ス<sup>り</sup>ク<sup>が</sup>ィ<sup>ね</sup>ー<sup>ま</sup>ニは、針<sup>ま</sup>金<sup>ま</sup>をグ<sup>ま</sup>ニ<sup>ま</sup>ヤ<sup>ま</sup>グ<sup>ま</sup>ニ<sup>ま</sup>ヤ<sup>ま</sup>曲<sup>ま</sup>げ<sup>ま</sup>る。
- 0337: ヒ<sup>む</sup>ュ<sup>ぞう</sup>ームが無<sup>ひ</sup>造<sup>ち</sup>作<sup>ぎ</sup>に引<sup>ひも</sup>き千<sup>じょう</sup>切<sup>ぶ</sup>った紐<sup>ぶ</sup>は、め<sup>じょう</sup>っ<sup>ぶ</sup>ちゃ丈<sup>ぶ</sup>夫<sup>ぶ</sup>なはず<sup>ぶ</sup>だ<sup>ぶ</sup>け<sup>ぶ</sup>ど。
- 0338: 夜<sup>よ</sup>通<sup>ど</sup>しでド<sup>し</sup>ラ<sup>ち</sup>マを視<sup>き</sup>聴<sup>つ</sup>し、気<sup>そ</sup>が付<sup>あ</sup>け<sup>か</sup>ば空<sup>あ</sup>が明<sup>あ</sup>ら<sup>あ</sup>む。
- 0339: 弥<sup>や</sup>彦<sup>ひこ</sup>と美<sup>み</sup>穂<sup>ほ</sup>は美<sup>び</sup>男<sup>なん</sup>美<sup>び</sup>女<sup>じょ</sup>で、猫<sup>ね</sup>も杓<sup>しゃく</sup>子<sup>し</sup>もや<sup>しゃく</sup>っ<sup>し</sup>か<sup>し</sup>むカ<sup>しゃく</sup>ッ<sup>し</sup>プル<sup>し</sup>だ。
- 0340: コ<sup>こ</sup>ン<sup>こ</sup>ピ<sup>こ</sup>エ<sup>こ</sup>ー<sup>こ</sup>ニ<sup>こ</sup>ュでデ<sup>で</sup>ザ<sup>で</sup>ー<sup>で</sup>ト<sup>で</sup>なら、ク<sup>く</sup>レ<sup>く</sup>ー<sup>く</sup>ム<sup>く</sup>ブ<sup>く</sup>リ<sup>く</sup>ュ<sup>く</sup>レ<sup>く</sup>だ<sup>く</sup>な。
- 0341: カ<sup>い</sup>ラ<sup>い</sup>スがク<sup>ひ</sup>ァ<sup>ひ</sup>ー<sup>ひ</sup>ク<sup>ひ</sup>ァ<sup>ひ</sup>ーと威<sup>ぶ</sup>嚇<sup>くろ</sup>した<sup>くろ</sup>が、ヴィ<sup>か</sup>シ<sup>か</sup>ニ<sup>か</sup>ョ<sup>か</sup>ー<sup>か</sup>ワは怯<sup>か</sup>ま<sup>か</sup>ずゴ<sup>か</sup>ミ<sup>か</sup>袋<sup>か</sup>を片<sup>か</sup>付<sup>か</sup>ける。
- 0342: ハ<sup>そ</sup>ビ<sup>そ</sup>ヤ<sup>そ</sup>リ<sup>そ</sup>マ<sup>そ</sup>ナは狙<sup>お</sup>撃<sup>び</sup>にビ<sup>し</sup>ク<sup>し</sup>ビ<sup>し</sup>クと怯<sup>お</sup>え、食<sup>しょく</sup>事<sup>じ</sup>もギャ<sup>どく</sup>ッ<sup>どく</sup>ドに毒<sup>どく</sup>見<sup>み</sup>さ<sup>み</sup>せる。
- 0343: 果<sup>か</sup>実<sup>じつ</sup>をギ<sup>し</sup>ュ<sup>し</sup>ギ<sup>し</sup>ュ<sup>し</sup>と絞<sup>し</sup>ったジ<sup>き</sup>ュ<sup>ぶ</sup>ースで、気<sup>き</sup>分<sup>ぶん</sup>をリ<sup>り</sup>フ<sup>り</sup>レ<sup>り</sup>ッ<sup>り</sup>シュ<sup>り</sup>。
- 0344: デ<sup>か</sup>ィ<sup>く</sup>ジ<sup>く</sup>タルデ<sup>じ</sup>ィ<sup>じ</sup>バ<sup>じ</sup>イドが、格<sup>ひ</sup>差<sup>さ</sup>を助<sup>さ</sup>長<sup>ちやう</sup>するこ<sup>ひ</sup>と<sup>さく</sup>への秘<sup>ひ</sup>策<sup>さく</sup>があ<sup>ひ</sup>るん<sup>さく</sup>です<sup>ひ</sup>よ<sup>さく</sup>ね、
- ジョ<sup>じ</sup>ゼ<sup>じ</sup>ッ<sup>じ</sup>フ<sup>じ</sup>ォ？
- 0345: ヴ<sup>き</sup>ェ<sup>り</sup>ス<sup>り</sup>ピ<sup>り</sup>ニ<sup>り</sup>ャ<sup>り</sup>ー<sup>り</sup>ニは規<sup>き</sup>律<sup>りつ</sup>を重<sup>おも</sup>ん<sup>じ</sup>る<sup>じ</sup>が、自<sup>じ</sup>由<sup>ゆう</sup>も尊<sup>とう</sup>ぶ<sup>と</sup>。
- 0346: イ<sup>か</sup>ヴ<sup>か</sup>ギ<sup>か</sup>ェ<sup>か</sup>ー<sup>か</sup>ニ<sup>か</sup>ィ<sup>か</sup>ェ<sup>か</sup>ヴ<sup>か</sup>ナの、過<sup>し</sup>激<sup>よ</sup>な毒<sup>どく</sup>舌<sup>ぜつ</sup>ブ<sup>し</sup>ロ<sup>し</sup>グが書<sup>し</sup>籍<sup>し</sup>化<sup>せ</sup>し、百<sup>ひ</sup>万<sup>ゃく</sup>部<sup>まん</sup>売<sup>ぶ</sup>れた<sup>う</sup>そう<sup>う</sup>な。
- 0347: グ<sup>く</sup>ウ<sup>こ</sup>ラ<sup>こ</sup>ー<sup>こ</sup>トは、デ<sup>く</sup>ィ<sup>こ</sup>ー<sup>こ</sup>プ<sup>こ</sup>ニ<sup>こ</sup>ュ<sup>こ</sup>ー<sup>こ</sup>ラ<sup>こ</sup>ル<sup>こ</sup>ネ<sup>こ</sup>ッ<sup>こ</sup>トワ<sup>こ</sup>ークをロ<sup>く</sup>ボ<sup>こ</sup>ットに組<sup>く</sup>み<sup>こ</sup>込<sup>こ</sup>む。
- 0348: チ<sup>ね</sup>ーズの値<sup>あ</sup>上<sup>し</sup>げが食<sup>しょく</sup>費<sup>ひ</sup>を押<sup>お</sup>し上<sup>あ</sup>げ、ド<sup>せ</sup>ラ<sup>つ</sup>ピ<sup>やく</sup>ェ<sup>く</sup>ールは節<sup>よ</sup>約<sup>ぎ</sup>を余<sup>よ</sup>儀<sup>ぎ</sup>なく<sup>よ</sup>さ<sup>ぎ</sup>れた。

- 0349: かわ は お べっしつ ほうち  
皮を剥ぎ終わったら、別室でバラバラに放置しておいて。
- 0350: とつじょきぜつ よ ひと きゅうじょ  
ビエロヴァルで突如気絶したら、善い人が救助してくれました。
- 0351: ゆび ぎし み ば ひとむかしまえ よ  
指の義肢、すなわちエピテーゼの見栄えは、一昔前よりかなり良くなった。
- 0352: しょっかん ちが  
パスタでも、ファルファツレとフィットチーネでは、食感がまるで違う。
- 0353: じゅばく と たよ  
呪縛を解くなら、リエルヴァーデのシェミャーカを、頼りなされ。
- 0354: ながちょうば あ  
ゴルフやフィールドアーチェリーは長丁場なので、飽きっぽいウェグナーはちょっとな。
- 0355: かべ ほう  
壁にボールを放ると、グローブをつけたポルピュリオスがキャッチした。
- 0356: びょうじゃく みやげ や はし こうにゆう  
病弱なドウシェミンは、土産の八つ橋を購入するだけでへろへろだ。
- 0357: スノクアルミーで、ミューニュートリノのレクチャーがあるのでしょ？
- 0358: ぐさ かぐわ たたみ わ さ ふかけつ じふ  
い草の香しさが、畳の侘び寂びに不可欠だと自負しております。
- 0359: せんりゃく はんようてき せ たいしよ  
ああ、ドラヴィーニュの戦略なら汎用的で、あらゆる攻めに対処できますね。
- 0360: はなぞの すみか  
かつて、ファドゥーツの花園に、フェアリーの住処がありました。
- 0361: せいいく うね もち  
ジャガイモの生育に、畝を用いる。
- 0362: み ぼし だいひょうさく あじ  
三ツ星レストランシェフの代表作である、フォアグラソテーをじっくり味わう。
- 0363: びみょう み しっかく  
ズビグニェフのワールドレコードは、レギュレーションを微妙に満たさず、失格だろう。
- 0364: うし ひつにゆうりょう らくのう しゅうえき ちょっけつ  
牛の泌乳量は、酪農の収益に直結する。
- 0365: ペプシコーラとレモネードにコニャック、カクテルのバランスがシビア。
- 0366: なぐ  
ズバリ、ペツオッタを殴ったのは、シャクェリアだ。
- 0367: かなめ  
えっと、スタックのアルゴリズムでは、プッシュとポップが要です。
- 0368: ゆ みず ひた ず てがる  
茹でたモヤシを水に浸し、ゆずポン酢で手軽なおかずだ。
- 0369: きじゅつ へきえき  
プリピャチとチェルノブイリをセットで記述するコラムに、辟易とする。

0370: ゴルツェーニョは、皆<sup>みなさま</sup>様<sup>ねつれつかんげい</sup>を熱烈歓迎します。

0371: 死神<sup>しにがみ</sup>の巣窟<sup>そうくつ</sup>に、グイドッティが足<sup>あし</sup>を踏み入れ、六<sup>ろっ</sup>か月<sup>げつご</sup>後に白骨<sup>はっこつ</sup>で見つかった。

0372: 湯桶<sup>ゆとう</sup>読<sup>よ</sup>みの言葉<sup>ことば</sup>なら、雨具<sup>あまぐ</sup>や湯茶<sup>ゆちゃ</sup>が、パッと浮<sup>う</sup>かびました。

0373: デャコヴォに住<sup>す</sup>む家族<sup>かぞく</sup>に、ポルペッティーネを振舞<sup>ふるま</sup>ったら、喜<sup>よろこ</sup>ばれた。

0374: ペーテヤのツイートがバズり、二日<sup>ふつか</sup>でフォロワーが百<sup>ひゃく</sup>も増<sup>ふ</sup>えた。

0375: さて、恭<sup>きょういち</sup>一<sup>いち</sup>がマネジメントしたオペラが、ヴァルドウッジャでお披露<sup>ひろめ</sup>目だ。

0376: 事後<sup>じご</sup>の調査<sup>ちょうさ</sup>でドーピングがバレて、ベニョヴスキーのメダルが剥奪<sup>はくだつ</sup>された。

0377: あーあ、ドウグォンのセキュリティが突破<sup>とっぱ</sup>されると、事前<sup>じぜん</sup>にメールしたのに。

0378: グェラツツィは、ギザギザの鑪<sup>やすり</sup>で木目<sup>もくめ</sup>を磨<sup>みが</sup>き、昼休<sup>ひるやす</sup>みにキャンディをペロペロ舐<sup>な</sup>める。

0379: フォルギェーリとブトラゲーニョのコンビは、デビュー以来不敗<sup>いらいふはい</sup>だと聞いたが？

0380: ずらずらとジュエルを並<sup>なら</sup>べ、ミョーチョーマイインに捧<sup>ささ</sup>げたが、拒否<sup>きよひ</sup>された。

0381: 武勲<sup>ぶくん</sup>をたてたデュウェイだが、ビューフォートで事故<sup>じこ</sup>に巻き込まれ、死亡<sup>ま</sup>した。

0382: 命<sup>いのち</sup>を懸<sup>か</sup>けた勝負<sup>しょうぶ</sup>など馬鹿<sup>ばか</sup>げているが、デョークはギャンブルで賭<sup>か</sup>けてしまう。

0383: ゴビヤートがロープウェイで暴<sup>あば</sup>れ、乗<sup>じょうきやく</sup>客<sup>かく</sup>がパニックになった。

0384: ヴラーンギェリは、ミュージカルと歌舞伎<sup>かぶき</sup>が趣味<sup>しゅみ</sup>だ。

0385: ビェリツァとスィルギェーイ、滅多<sup>めった</sup>にお目<sup>め</sup>にかかれぬ幻<sup>まぼろし</sup>の決戦<sup>けっせん</sup>だ。

0386: コンメツツァドゥーラの芝生<sup>しばふ</sup>で、グローシェフがおもちゃのフリスビー<sup>な</sup>を投<sup>な</sup>げる。

0387: グェレーロは臆病<sup>おくびょう</sup>風<sup>かぜ</sup>に吹<sup>ふ</sup>かれ、ぐずぐずとぬるま湯<sup>ゆ</sup>を望<sup>のぞ</sup>む。

0388: ディデューは、新潟<sup>にいがた</sup>で開<sup>ひら</sup>かれるパーティーに、ズヴェーリエフ<sup>さそ</sup>を誘<sup>さそ</sup>った。

0389: 座席<sup>ざせき</sup>は窓側<sup>まどがわ</sup>で、持ち込むのは小型<sup>もこ</sup>のキャリーバッグ<sup>こがた</sup>だけです。

0390: 神奈川<sup>かながわ</sup>のビーチで日焼<sup>ひや</sup>けし、肌<sup>はだ</sup>が痒<sup>かゆ</sup>くヒリヒリする。

0391: 漢字の叱かんじ しつは、叱しかると酷似こくじ まぎして紛まぎらわしい。

0392: クァイティオを、ジュネーヴで馴染なじむ味付けあじつにアレンジし、連日れんじつ行列ぎょうれつで荒稼あらかせぎだ。

0393: 隠喩いんゆで侮辱ぶじよくされたシェーンメッツァーが、皮肉ひにくでやり返かえした。

0394: ヴィニユーの地層ちそうで出土しゅつどした宝玉ほうぎよくが、ゴールドラッシュの幕開まくあけだ。

0395: 愛娘まなむすめを守るため、リビングに柵さくを設せ置ちした。

0396: トプギエルは、逆境ぎゃつぎょうを覆くつがえし、八八歩はちはちふからの五手詰ごてづめをかけた。

0397: ニエムツォヴァーは、ウェットティッシュで床ゆかを拭ふく。

0398: ベデヤイはシュートフォームを録画ろくがし、バロツツイが助言じょげんした。

0399: ベッドフォードがユーフォーを目撃もくげきしたエリアに、不気味ぶきみな焼やけ跡あとがある。

0400: シュヴィルツォクは、ヴィネガーとレバーきらが嫌きらいだ。